

# 令和6年能登半島地震における 医療救護活動（DMAT）

令和6年1月1日夕方に発生した能登半島地震は最大震度7を観測し石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。長岡赤十字病院では、直後に約200人の職員が登院し、患者さんの安全確認、自施設の被災状況や被災地の情報収集等を行いました。被災地での被害は甚大であり広範囲に及ぶため、DMAT隊員\*を現場に派遣し活動を行いました。

- ◆1月2日、新潟県DMAT調整本部（新潟県庁内）に医師、事務を派遣しました。
- ◆1月3日、被災医療機関支援（新潟市内）に看護師、事務を派遣しました。
- ◆1月6日、医師・看護師・臨床工学技士・病院救急救命士で編成されたDMAT隊を金沢市に派遣しました。7日からDMAT活動拠点本部（金沢市内の医療機関）において、医師は本部長として、他の隊員も医師をサポートしながら活動を開始。被災地の病院機能が維持できるよう行政、自衛隊等と連携し多岐にわたる調整を行いながら、全国から参集したDMAT隊員に指示を出し現場を統括しました。

※「DMAT(ディーマツト)」とは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。



〈1月6日、出発式で決意表明を行うDMAT隊員〉



〈本部で指示を出す当院医師：写真中央〉

## 救うことを、つづける。